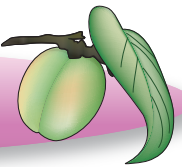


# プラムポックスウイルス検出キット

plum pox virus Detection Kit



製品名	包装単位	希望納入価格(税別)	Code No.
プラムポックスウイルス検出キット	48 テスト用	53,000円	NE0071
	192 テスト用	201,000円	NE0073



## 製品説明

本キットは、LAMP 法を利用してプラムポックスウイルスを検出するキットです。プラムポックスウイルスゲノムの一部を増幅し、増幅の有無からプラムポックスウイルスの存在を判定します。

検出に必要な操作は、プラムポックスウイルスの存在が疑われるウメの葉や果実を爪楊枝で突き、その爪楊枝を検査溶液に浸して 63°C に 1 時間保温するのみであり、きわめて簡便です。

判定には DNA 増幅の有無を蛍光発色液の発色の有無によって確認する目視判定法を採用しており、DNA 増幅反応から検出までを同一反応チューブ内の完全閉鎖系で行うため、安全に短時間でプラムポックスウイルスを検出することが可能です。

### 【プラムポックスウイルス (plum pox virus)】

プラムポックスウイルス (plum pox virus) は、モモ、ネクタリン、プルーン、スモモ、アンズ、サクランボなどのサクラン属の果樹に甚大な被害を与える植物ウイルスであり、近年、世界的に発生が拡大しています。サクラン属の果樹では、感染により果実の早期落果や奇形、花弁への斑入り症状が起こる事例が知られています。

我が国では、2009 年 3 月に東京大学 植物病院<sup>®</sup>において、これまで世界でも自然感染の例が無かったウメからプラムポックスウイルスが検出されました。プラムポックスウイルスは接木その他、アブラムシにより媒介されることから、病気が発生した園地では感染植物の除去、ウイルスを媒介する可能性のあるアブラムシの防除を徹底する等、防除策を講じる必要があります。罹病樹から健全樹への感染拡大を防止するためには罹病樹の早期発見、除去が不可欠となります。



上:ウメの葉の病徴部に見られる輪紋  
左:ウメの花に現れた斑入り症状

本キットの商品名には、plum pox virus の英名の発音に従って「プラムポックスウイルス」を使用しております。本ウイルスの和名およびその感染によるウメの病名(和名)は、日本植物病理学会により2010年にそれぞれ「ウメ輪紋ウイルス」および「ウメ輪紋病」に決定されています。



## 特長

### 1. 核酸の抽出・精製等の前処理が不要

ウイルスを直接検出しますので、ウメの葉や果実からの核酸の抽出・精製は必要ありません。

### 2. シンプルな使用方法

ウメの葉や果実を爪楊枝で突き、検査溶液に浸して 63°C で 1 時間保温するだけで検査できます。

### 3. 明確な判定方法

検査溶液の蛍光発色の有無により判定を行いますので、簡単に陰性、陽性を判別できます。

### 4. 検査環境の汚染リスクを低減

電気泳動などの操作による汚染の心配がありません。



## キット内容

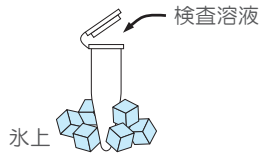
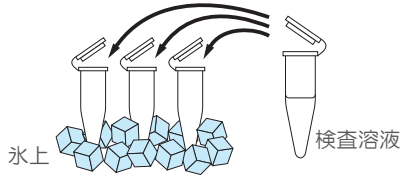


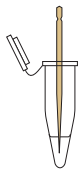
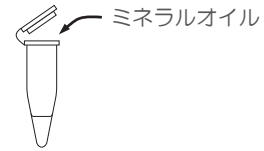
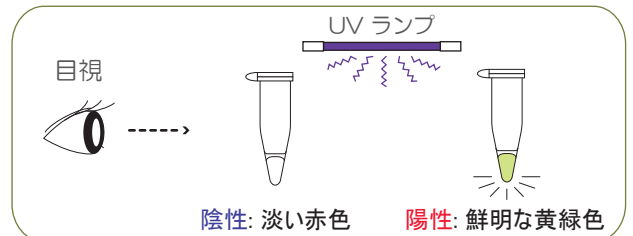
【48 テスト用】



【192 テスト用】

- PPV 検査液
- PPV 酵素液
- 蛍光発色液
- PPV 陽性コントロール
- ミネラルオイル
- 検査用チューブ
- 取扱説明書


**使用方法**
**1 検査溶液を必要量まとめて作製する**

**2 検査溶液を分注する**

**3 葉の病徴部を爪楊枝で突く**

**4 前工程の爪楊枝を検査溶液に浸す**

**5 ミネラルオイルを重層する**

**6 63°C、1時間 (検査反応)**
**7 80°C、2分間 (検査反応停止)**
**8 判定**

**参考文献**

Maejima K, Hoshi H, Hashimoto M, Himeno M, Kawanishi T, Komatsu K, Yamaji Y, Hamamoto H, Namba S. (2010) First report of plum pox virus infecting Japanese apricot (*Prunus mume* Sieb. et Zucc.) in Japan. *J Gen Plant Pathol.* 76 (3): 229

Maejima K, Himeno M, Komatsu K, Takinami Y, Hashimoto M, Takahashi S, Yamaji Y, Oshima K, Namba S. (2011) Molecular epidemiology of plum pox virus in Japan. *Phytopathology.* 101 (5): 567

**備考**

本品は試験研究用試薬です。医薬品の用途には使用しないでください。

LAMP (Loop-mediated Isothermal Amplification) 法は、栄研化学株式会社により開発された日本産の等温遺伝子増幅法です。

本紙掲載の製品仕様や価格を予告なく変更する場合があります。・表示価格は2025年4月現在の希望納入価格 (税別) です。

**株式会社ニッポンジーン**

[Address] 〒930-0834 富山県富山市問屋町二丁目7番18号

[TEL] 076-451-6548

[URL] <https://www.nippongene.com/kensa/>

[E-mail] [support@nippongene-analysis.com](mailto:support@nippongene-analysis.com)

ニッポンジーンECサイト

本品は、「ニッポンジーンECサイト」でご購入いただけます。

[URL] <https://nippongene-analysis.com/order/>